

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成30（2018）年度採択分）
「生態学分野3誌の共同出版によるアジアからの国際情報発信の強化」
（課題番号：18HP1002）

学術団体名：一般財団法人 日本生態学会

学術刊行物の名称：Ecological Research, Population Ecology, Plant Species Biology

事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

日本からの国際情報発信と国際的なプレゼンスを一層発展させるために、日本生態学会の主導のもと、Ecological Research誌、Population Ecology誌、Plant Species Biology誌を共同で編集・出版する体制を構築する。異なった特長を持つ3誌を連携させることでスケールメリットを生み出し、国際的な広報を行うことで注目度を高め、もってわが国およびアジア地域の多様な生態学の成果の国際発信強化とプレゼンスを高めることを目標とする。

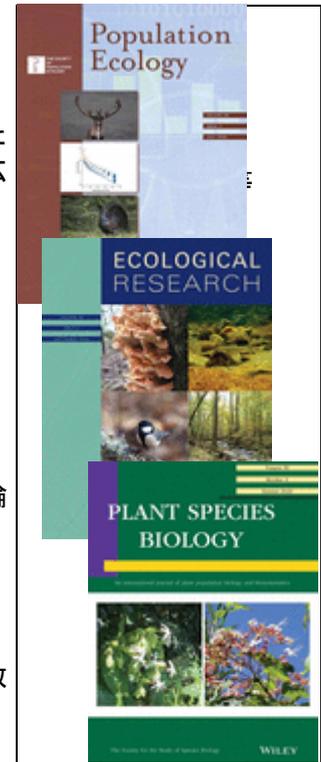
・応募時に設定した取組の目標・評価指標

1：ER誌、PE誌、PSB誌の合同出版体制を構築し、投稿から出版までの一体運用できるシステムを作成する。編集効率の向上を投稿から最初の審査結果通知までの平均日数で評価する。

2：効果的に国際シンポジウム、ワークショップ等を開催し、その内容を各誌に特集として掲載する。着目度の向上をJournal Impact Factor（JIF）、論文ダウンロード数、被引用件数で評価する。

3：海外の先進的な研究者、およびアジアの優秀な研究者を編集委員として任用し、アジア発の論文掲載数の増加、および次世代研究者を育成する。海外編集委員の割合、アジア著者論文の割合で評価する。

4：編集委員の推薦によるOA出版経費補助などの制度を整備して、OA論文数を増加させる。その成果はオープンアクセス論文数およびそのダウンロード件数で評価する。



2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

1：2018年6月に3誌の合同編集局を立ち上げた。投稿から最初の審査結果通知までの平均日数はいずれの雑誌でも短縮した。

2：ER誌、PSB誌の被引用論文数は申請時目標を上回って順調に増加している。またJIFも目標を上回って上昇している。ER誌、PE誌では外国人編集者の割合が54%まで上昇し、PSB誌については、60%を超えている。

3：2020年には各学会で国際シンポジウム企画が予定されていたが、Covid-19の影響で全てキャンセルされた。海外研究者との組織的交流が難しくなっており、招待論文や特集企画の計画が遅れている。

4：3学会の各種受賞論文やシンポジウム特集号掲載論文へのOA出版助成制度が整備された。

・今後の計画

新しい社会情勢に対応し、Internetを通じた海外情報発信活動を強化する。新しい出版活動についてERウェビナーとして、広く研究者に情報発信を行う準備を行っている。2019年4月に開始以来、順調にフォロワー数が増加している各雑誌の英文Twitterを活用することで、学会活動とリンクさせたより効果的な国際情報発信を行う。世界的な科学論文出版の変革に対応した先進的な取り組みを進めることで、Altmetrics向上も含めた総合的な3誌のステータス向上を行うことを計画している。

